

# 口腔の健康を含む不良な生活習慣・健康状態の集積が全死因死亡に与える影響に関する研究：JAGESプロジェクトから

著者	長谷 晃広
学位授与機関	Tohoku University
学位授与番号	11301甲第18012号
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/00123676">http://hdl.handle.net/10097/00123676</a>

# 論文内容要旨

学籍番号 B3DD5028

氏名 長谷 晃広

## 論文題名

口腔の健康を含む不良な生活習慣・健康状態の集積が全死因死亡に与える影響に関する研究：JAGES プロジェクトから

## 目的

世界全体の死因の約 70%を占めている非感染性疾患による死亡の多くは生活習慣の改善により予防可能とされている。好ましくない生活習慣・健康状態の集積が死亡に与える影響の研究はこれまでにない。そこで本研究は、日本人を対象として、飲酒、喫煙、運動、肥満、現在歯数から生活習慣・健康状態（以降、生活習慣）を点数化し、これが死亡に与える影響および生活習慣スコアに現在歯数を加える場合と加えない場合の影響の違いを検討することを目的とした。

## 方法

日本老年学的評価研究（JAGES）プロジェクトの 2003 年調査の口腔衛生に関する質問紙に回答した 4,904 名（回収率 51.7%）のコホートデータを用いた。毎日 1.5 合以上飲酒をする、喫煙歴がある、一日あたりの歩行時間が 30 分未満である、BMI が 18.5 未満または 25.0 以上である、現在歯数が 20 本未満である、のそれぞれに該当する場合に得点 1 点を与え、合計値より生活習慣スコアを算出して COX 比例ハザードモデルで全死因死亡のハザードを推定した。

## 結果

2014 年 2 月まで追跡を行い、4,459 名（追跡率 90.9%）のデータが利用可能だった。5 つの生活習慣がすべて良好な者（生活習慣スコア 0 点）は男性が 74 名（男性の 3.5%）、女性が 243 名（女性の 10.5%）、4 つ以上悪い生活習慣を持つ者（生活習慣スコア 4 点以上）は男性が 182 名（男性の 8.4%）、女性が 13 名（女性の 0.6%）だった。年齢、教育歴、婚姻状態、現病歴を調整した際の、生活習慣スコア 0 点の者と比較した 4 点以上の者における死亡のハザード比は男性で 2.05（95%信頼区間 1.18-3.56）、女性で 4.17（95%信頼区間 1.67-10.41）であった。生活習慣スコアに現在歯数を加えないモデルと比較して、現在歯数を加えたモデルのハザード比は男性で 6.7%、女性で 55.5%高かった。

## 結論

好ましくない生活習慣・健康状態の集積が死亡リスクの上昇と関連していることが明らかとなった。また口腔に関する指標を追加することで、よりリスクが高い人を特定することが可能になることが示唆された。